

「阿賀の宝もん」発掘記 ☆

aga-no-takaramon hakkutsu ki

vol.1

2010年9～10月号

「真の地域づくり」につながる活動レポートを創刊

新潟水俣病の発生を境に失われていった流域の「人と人の絆」や「人と自然の関係」の紡ぎ直しを目指して始まった「阿賀野川えとこだプロジェクト」(FM事業)。これまで、本当に意味のある地域づくりを進めていこうと、地元を始め様々な方々の協力を得つつも、ユニークな試みや多種多様な活動を、コアメンバーを中心に考えに考え抜いて実践してきました。

「紡ぎ直しの実現のために本当に効果的な活動とは？」「今まで関係を持てなかった人や無関心だった人と新たな関係をつくりあげていくには？」など、毎晩遅くまで真剣に話し合い、現場に足を運んで関係づくりにいそしんだ日々も数知れず…。だからこそ、FM事業の試行錯誤の軌跡には、真の地域づくりにつながる知恵やヒントが少なからず埋もれていると実感しています。

同じ志を持つ人々のほんの少しでもお役にでも立てればと、今後のFM事業の展開の中でも、特に「キラリと光る」活動を記録に残しておくために、本レポートを創刊しました。

(※2～3ヶ月に1回発行予定)

鹿瀬の人々をめぐる、富永さんの旅

個人史から浮かび上がる鹿瀬地域の变迁を求めて

卒論調査の学生とFM事業が協力して、鹿瀬地域の人々との交流開始

富永美香さんは新潟大学人文学部の学生で社会学を専攻。FM事業との出会いは、昨年8月の「夏あがセミナー09」(立教・立正大学共催)への参加がきっかけでした。

参加者の中では珍しく「鹿瀬の人々がどう感じているか」に関心を抱き、「鹿瀬と新潟水俣病」を卒業論文のテーマに選ぶことに決めたそうです。以降、FM事業に様々な場面で協力



●お借りしてきた写真資料の数々



●写真下3点:富永さん訪問の様子

聞き取り訪問レポート

- 9月25日(土)
○元昭和電工社員のAさん宅を訪問。
○99年契約の工場敷地の地主Bさん宅を訪問。
- 10月23日(土)
○Bさん宅を訪問。
- 10月24日(日)
○Aさん宅を訪問。鹿瀬工場タイムスや社員時代の写真をお借りする。
- 10月26日(火)
○昭電で働いた経験のあるCさん宅を訪問。
- 10月30日(土)
○Aさん宅を訪問。奥さんを中心に聞き取り。写真をお借りする。
- 10月31日(日)
○Cさんを訪問。

- 富永さんは、卒論調査の実施に当たり「ライフヒストリー」の手法を用いて、調査対象である地域の方々から、それぞれの人生の聞き取りを行いました。その結果をもとに、鹿瀬地域の移り変わりの分析を試みます。



●様々なおもてなしを...

- FM事業では、発掘資料の整備状況を説明し、その活用事例の1つである映像作品『ハモニカ長屋から眺めた風景～写真で綴る鹿瀬・昭和電工・阿賀野川』をご覧いただいた上で、皆さんがお持ちの様々な資料の提供をお願いしました。



●鹿瀬工場タイムスをお借りすることができました!

元昭電社員の方から、鹿瀬工場タイムスをお借りすることができました。ほぼ全ての号が揃っており、大変貴重な資料と言えます。本当にありがとうございました!



聞き取りに際して...

現場に出向く、関係づくりを行う。 地道な作業こそ、事業を前へ進める。

富永さんの聞き取りに帯同して
改めて気づかされた視点を
事務局がレポートします！

聞き取り結果は
次号で紹介！

本当の現場主義
FM事業は「新潟水俣病に向き合っ
て、乗り越える地域
づくり」を目指して
います。その目的に
少しでも近づくと
めには、地域の方々
と新潟水俣病につ
いて語り合える関
係づくりが避けて
通れません。
そうした「本当の
現場主義」が、これ
までの流域では皆
無に近い状況でし
た。FM事業はその
状況に風穴を開け
たくて、ロバダン！



等を通じた関係づく
りを、鹿瀬地域を始
め流域で展開した訳
ですが、それに付随し
てFM事業全体も明
らかに前進しました。
地道な関係づくり
ところが、今年度
に入ると現場に出向
く回数が極端に減っ
て、FM事業全体の
進展も滞りがちでし
た。今回、富永さんの
求めに応じて現場巡
りを再開すると、やは
り収穫があり次の
ステップに進める契
機が掴めました。
なお、今回、これま
でお断りされていた
方にもお会いでき、大
変貴重な資料までお
借りできました。そう
した関係が築けた背
景には、沖田信悦さ
んや里村洋子さん、
渡部文彦さんによる
親身な働きかけがあ
ったことを申し添え
ます。

阿賀野川え〜とこだより 編集記

第3号が11月に発行！ 見どころ、読みどころは…？

- 今号の特集は「阿賀野川え〜とこだ!環境学習」。基本理念などを紹介。
- 失われた絆の回復を目指すFM事業が、今、なぜ環境学習を行うのか？
- 新潟水俣病を乗り越えることで、流域住民が手に入れられるものとは？
- そのほか、紙芝居「阿賀野川物語」や映像作品の紹介、連載コラムの告知など。



□ 阿賀野川え〜とこだよりワーキングチーム 開催レポート

- 第1回：9月10日(金) → 環境基本理念の勉強会
- 第2回：9月15日(水) → 基本的な構成案の検討
- 第3回：10月27日(水) → 事務局制作データを校正

ロバダン！開催レポート

●写真：五泉集本ロバダン。「阿賀野川ブランド」と新潟水俣病について話し合った。



- 5月22日(土)
○ NPO法人新潟水辺の会の皆さんと開催
- 6月12日(土)
○ 五泉市の川漁関係者の会の皆さんと開催
- 7月28日(水)
○ NPO法人ねつとわーく福島潟の皆さんと開催
- 8月26日(木)
○ 津島屋地区(新潟市東区)の皆さんと開催
- 8月31日(火)
○ 津島屋地区(新潟市東区)の皆さんと開催
- 10月19日(火)
○ 巢本地区(五泉市)の農家の皆さんと開催



阿賀野川え〜とこだプロジェクトとは？

正式には「阿賀野川流域地域フィールドミュージアム事業」(略称 FM 事業)。
阿賀野川流域の各地域がかつて発生した新潟水俣病と向き合い、それを乗り越えるような「人と人の絆」や「人と自然の関係」を紡ぎ直すため、流域の住民・行政・民間団体が手を取り合い、「新しい地域づくり」を目指して始まったプロジェクト。

編集後記

多忙な日々を迫る締切の数々、目の前にたまる書類の山…本当はこんなレポートを作っている暇などない！とぼやきつつ、そんな書類や記録の海から、過去のキラリと光る活動の発掘にいそむ。

vol.1 2010年9~10月号

発行：新潟県(2011年1月7日)

企画編集：阿賀野川え〜とこだプロジェクト

●事務局/〒959-2221 阿賀野市保田 3866-1

TEL&FAX：0250-68-5424

E-mail：aganogawa@niigata.email.ne.jp

URL：<http://www.aganogawa.info/>



●写真：麒麟山の水鏡(一部)